



1年半の海外研修を経て
今年から新規就農

いわした ひろたか
岩下 宏貴さん



写真④研修先のワシントン州の農場は川の対岸まで広がる。⑤趣味の旅行で渡米中にユタ州のソルトレイクへ。「旅行は違ったものが見れるので楽しい」と岩下さん。⑥「若いうちは何でも経験したほうがいいと思います」と父親の清さん(写真左)。

「宮崎牛などに合う味の濃いぶどうを作ってみた」と夢を語る若者がいる。岩下宏貴さん、26歳。今年10月、米国ワシントン州での1年半の農業研修から帰国した。現在は、両親や地域の協力を得ながら新規就農に向け準備を進めている。岩下さんは、18歳で横浜の大手自動車メーカーに就職。約6年仕事を続けたが、この先もずっと都会で働き続けることに疑問を感じていた。果樹園を営む両親のもとで育った岩下さんが、農業

を志すことを決意することには自然な流れだったのかも。決意後、海外農業研修があると知った。「何の仕事に就くにしても、30歳までに仕事を安定させたかった。今がチャンスだと思った」。渡米先のワシントン州の農場は、最高気温がマイナスイ5度の日もある寒冷地。防寒しても手足はかじかんだ。「農場は想像以上に広大で毎日の作業量も相当なもの。でも、仲間たちがいたから外での作業は苦になりませんでした」。

幼い頃から、日本の農業を見てきた岩下さんにとって、日本の農業がいかに繊細な技術を誇っているのかを感じたという。後継者不足など、日本の農業が抱える問題は多い。しかし、岩下さんは違う視点から農業を見据える。「生きるために食は必要不可欠。世界規模で人口が増加していることを考えると、今後は食につながる農業が注目されると考えています」。日本の農業の未来に希望を抱いた農業青年が、新しい大地に踏み出す。

今後は食につながる農業が重要視される
周りの協力を得ながら事業を進めて
味の濃いぶどうを作ってみたい

小林
こばやしびと
Vol.84



きずな協働体通信

このコーナーでは、市内7地区で設立された「きずな協働体」の活動やイベント情報を紹介します！

南地区

演劇「うさぎとかめ」を開催！

12月1日にKITTO小林で、まちづくり劇場「演劇うさぎとかめ」を開催しました。宮崎県立芸術劇場で行われているアウトリーチ事業「けんげきくんがゆく！」との共催で行ったこの事業は、体験型スペクタクルパフォーマンスとして上演。子どもたち自身が、自ら自由に考えることを「うさぎとかめ」という童話を題材にして促すというテーマで上演され、保護者を含め、多くの子どもたちに楽しんでもらいました。南地区まちづくり協議会では、音楽や演劇を通して心豊かな地域社会を築いていく取組みを今後も続けていきたいと考えています。



イベントには、多くの来場者が詰めかけました

西小林地区



シンガポールの学生らは西小林中学校で授業を体験しました

シンガポールと交流
12月にシンガポールから4人の学生を受け入れました。各家庭へのホームステイを軸に、もちつき交流会、西小林中で授業に参加、農場の見学、バスで須木や生駒高原に行くなど、交流を深めました。この友好関係が末永く続くように、サポートしていきます。

にっこばまちづくり協議会



今年のテーマは「笑顔」です

カレンダー販売しています
毎年ご好評いただいている、にっこばまちづくり協議会が作成する「伝統文化カレンダー」が完成しました。地元愛たっぷりの写真が満載で、方言コーナーも人気。一冊500円です。

細野地区

細野小の空き教室でオレンジカフェを開催

細野小学校の空き教室を活用して、オレンジカフェを開催しました。地域包括支援センターやひまわりの会(認知症サポーターリーダー)の皆さんと地域の方々がワイワイ楽しく過ごせるように開催した今回のカフェは、筋肉の貯筋運動をしたり、季節の歌や懐かしい歌を歌ったり、お手玉を使ったゲームを行いました。会場は笑い声であふれ、また参加したいという声もたくさん聞かれました。空き教室を使ってみんなが一つになって実現したカフェです。これから参加者も増え地域の方々がますます元気になるように活動していきます。



今後は、毎月第2水曜日に開催予定で次回は1月9日(水曜)。ぜひお立ち寄りください